

⑤ 捕獲した鳥獣の効果的処理（減容化など）の事例

微生物分解減容化処理施設導入による有害鳥獣の処理負担軽減

事例対象地：宮城県村田町

団体：宮城県村田町

H P : town.murata.miyagi.jp/

キーワード：

微生物分解

減容化処理施設の導入

1. 概要

村田町では、捕獲したイノシシは現地埋設としていた。捕獲頭数の増加に伴い、捕獲個体埋設のための掘削作業は、捕獲者ならびに埋設処理の補助も担う町役場の担当者にとって大きな負担となっていた。そのため、町では処分方法の軽減が急務であった。そこで、捕獲個体をできるだけ解体せず、処理時間があまりかからない処理方法として、「減容化施設」を導入した。全国でも2例目の導入である。

2. 取組の経緯

村田町では、平成23年度以降、イノシシの生息域が急速に拡大したことを受けて、捕獲を推進したため、捕獲頭数が急増した。しかし、加工処理施設がなく、町の大半が山林地域のため掘削機が入れず、手作業での埋設が多くなり、捕獲後の埋設労力が課題であった。できるだけ捕獲者の負担を軽減し、捕獲に集中できる環境を整備することを目指し、解体ではなく、分解処理できる施設を導入するに至った。

3. 実施体制

村田町に導入した減容化処理施設は、村田町農作物有害鳥獣対策協議会によって運営されている。イノシシ捕獲個体の施設への運搬は、鳥獣被害対策実施隊が行っている。

4. 取組のポイント

- 解体の必要がなく、処理に時間がかからない
 - ➡ 捕獲した個体を解体する必要がなく、そのまま施設に持ち込み処理するため、捕獲者の負担が軽減された。
- イノシシの捕獲頭数の増加
 - ➡ 減容化処理施設を用いて、捕獲後の処理を効率化したことにより、捕獲頭数も増えた。
- 行政担当者や実施隊の意識の変化
 - ➡ 埋設処理する穴を掘る手間もなくなり、処理を効率化させることで、実施隊のやる気が高まり、士気が向上した。



導入された減容化処理施設 処理槽内の様子